

かるねつとぐだお！

カミヤ祖

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

どうもみなさん初めましての方は初めまして！

そうでない方も初めまして、カミヤ祖でございます！

今回からこちらのハーメルンでも活動させていただくことになりました。

まだまだ未熟な執筆者ですが応援してくださいとありがたいです。

今回、ハーメルンでの処女作として、FGOのパロディ物を書かせていただきました。

今後も書いていきますので応援よろしくお願いします！

目次

かるねっとぐだお！ part 1

かるねつとぐだお！ part 1

“わはははッそりやあり得ませんがなーーーー”
“本間ですわあー！”

「・・・最近芸人の質・・・落ちとるように思うんじやが・・・」

「そういうこと言うんじやありませんよノツブ・・・たとえば本当の事で
も・・・」

「だってえ・・・なんか同じようなネタしかやつとらんし・・・」

「・・・まあ・・・それに関しては感じるものがありますが・・・」

「毎回新鮮なのを求めておるわけじゃないがお・・・こう・・・斬新な
アイデアが見たいというか・・・はっ！沖田よ！今ならわしら二人で
M1とれんじやね!？」

「はいはい安易な妄想はそれぐらいにしておきましょうねー、てか今
頑張っている芸人の皆さんに失礼ですからねそれ」

「わかっておるがおー・・・なんか・・・ジャ○プをかって新しい漫画
を探そうとしたけど、読んだ内容がみなドラ○ンボールやT○らぶる
みたいな感じになってるって感じがするのおー」

「ネタがでつくしちやったんですかねえー・・・」

「なんかないかのおー」

ポチポチポチポチとノツブがテレビチャンネルを変える。

かゝゝゝるねつとかゝゝゝるねつとおお (うふウツ！うふウツ！)
(*ノωノ)

夢のカルネット、ぐだおーー (＊、ω、＊)

「すわあつ!!はじまってまいりましたあ！かるねつとぐだお!!ナレーターはわたくしマシユ・キリエライトと！」

「・・・(*、ω、*)」

「の二人でやっていきます!!」

※(*、ω、*) マスターです。

「かるねつとぐだおではカルデア内のサーバーヴァント達にも協力してもらい、一緒に盛り上がっていこうという番組です！」

「(、v、)ノ」

「はいっ先輩！その通りです！楽しんでいきましょう！さて最初のコーナーは・・・こちら!!」

『3王による高貴な会議― (笑)』

「・・・ふ・・・たまには面白そうな企画をするではないか」

「まったくだ」

「ふっっ・・確かにでおじゃるな」

豪華な金ぴかな部屋に、ワイングラス片手にソファに座る三人の姿があつた。

／／モニター室

「今回のサーヴァントの皆さんは、ギルガメツシユ王にオジマンディアス王、そしてなぜかいる黒髭さんです！もうこの時点でタイトル詐欺なきもしますが、まあ気にしないで行きましょう！」

「（／・ω・）／」

「なるほど、黒髭さんは生前数多の海を航海した存在だから一応海賊王でいいんじゃないかということ選ばれたんですね！さすが先輩！！」

「（*、ω、*）」

「はい！楽しみです！それでは、どんな会話をしていくか見てみましょうか！」

／／会場

「して・・・なぜそこに汚物があるのか」

「へっ汚物？どこにもないでおじやるよギルガメ氏」

「貴様の事だ貴様の、なぜ王の会合にお前のような存在がおるのだ！」

「まあマジレスすると選ばれたからですけど」

「まあまあ、落ち着け英雄王。いいではないかこういった存在がいることも余興を楽しむうえで必要なことだ」

「ふん・・・確かに一理あるか。今回は特別に参加することを許そう、雑種よ」

「あざーっす」

「き・・・貴様ツ・・・」

／／モニター室

「うわあ・・・もうすでに喧嘩ムードなんですけどこれは・・・」

「(；´∩´)A」

「あっ先輩、汗ふいて差し上げますねっ・・・」

「(*、ω、*)」

「いえいえッ、先輩のためですからッ・・・で・・・えーと、喧嘩しないうちに企画の方を進めましようか。先輩、こちらのボードにお題を書いてください」

「(、ー)ノ」

きゅつきゅつきゅつきゅ・・・と文字を書いていく

「このコーナーではこちらからお題を提示し、王様たちに話し合ってもらおうというコーナーになります。話し合ってもらう内容はコメントを受け付けておりますので、どうぞきがるにおねがいますね!!」

「(・ω・)ノ」

「はい、できたんですね。では王様たちの所に送りましょう!」

／／会議室

「・・・ん、これは・・・」

「どうした太陽の?」

「エロ本? エロ本でござるか?」

「たわけが、そんなものマスターが送るはずなからう。貴様でもあるまいっ」

「しどい!!それに、マスターだって男の子!送るかもしれないではありませんかあー」

「ふん、そんな輩に俺は召喚できんよ。：して、何と書かれていたのだ?」

「今回の話し合ってもらいたいお題だそうだ。お題は・

〃皆さんにとって愉悦とは何か〃」

「・・・ツ・・・」

英雄王と黒髭が息をのむ。

「ほう・・・これはまた奥が深いものを・・・」

「さすが人理修復を行ったマスター・・・目の付け所が違うでおじやるな」

「・・・ふっ、さつきまでのちやらかした雰囲気が一気に消えたではないか雑種よ。なにやら答えを持っているように見えるが・・・聞かせてみよう。」

「ふ・・・いいでしょう・・・吾輩にとって愉悦とは何か・・・それは・・・」

「それは・・・？」

「エウリュアレちゃんのツルペタボデイを支える下着が服の隙間から見えたときの快感に決まっておるのでおじやるよ!!」

／／モニター室

「（一一）」

「・・・うわぁ・・・」

「よく考えてみてください、エウリュアレ殿は下着など必要とせぬほどのツルペタボデイッ！そんな彼女が見栄を張り付けている大人用の下着が見えたときなんてツ・・・エウリュアレ殿の繊細で綺麗な乙女な恥じらいを感じ取れる最高の瞬間だと思いませんか!!これぞまさしくっ・・・愉悦ッ！」

いつも以上に興奮しながら何か常人には理解できないことを語る
黒髭。

「ふ・・・悪くない」

そんな黒髭に反応するA・U・O.

「な・・・なんですと・・・ギルガメ氏ツ」

「悪くないといったのよ、貴様の欲望が存分に詰まった回答ではないか」

「・・・ギルガメ氏・・・やだっカツコいい・・・」

「ちなみに太陽のはなんだ？」

「ん、俺か?・・・そうだな・・・このファラオにとって愉悦といえば・・・ずばり・・・」

「ずばり・・・?」

「ずばりっ！ニトクリスに難問を与え、失敗したときに見る顔よ！」

「・・・ほう」

「知っているとは思いますがニトクリスはおっちょこちよいではあるが、献身的だ。何事もそつなくこなそうとする・・・しかしあやつはおっちょこちよい！そんなあやつがやらかした時の顔は良い表情をしておるのだ!!」

「うわあー・・・ニトクリス氏、苦勞してるでござるなあ・・・」

「くっくっく・・・くはははははは!!よくわかっておるではないか太陽の!!それでこそ王というものよ！」

「えっ・・・ええええ!?今の良いでござるか!？」

「あたりまえよ!後任の王といえど、手のひらで弄んでこそ王というものよ!・・・それに、あのウサギもどきはそれぐらいされていた方がよい・・・であろうっ!」

「ふっ・・・」

オジマンディアスは小さく笑う。

「うむむ・・・何やら意味ありげな・・・で・・・では・・・聞くのステイ
怖いけど・・・ギルガメ氏の愉悦とは・・・?」

「ふむ・・・そうよなあ・・・昔、俺が認めた男の言っていた言葉で語つてやろう・・・」

「ほお・・・ギルガメ氏が認めた男とな・・・?」

「何やら興味が引かれる内容だが・・・さてどうなるか」

「なあに、ただ麻婆豆腐が大好きな腐れ外道聖職者の言葉だ」

「ほうほっいやすげー胡散臭いんですがそれは?」

「愉悦とは・・・幸福ではあらず、苦しくも前に進んでいくもの姿を見てわくもの」であるとな」

「・・・あ・・・あれ、意外と普通?」

「なんだ?俺が変なことでもいうと思っていたのか?」

「I am ゴールドエンツ！（ふおおっ!!）」

「あつどもー、一応進行役を務めるエレナ・ブラヴァツキーよ。えーと……なにになに……このコーナーでは、世界のゴールデン事坂田金時に、たわいない事を聞くコーナーです……何これ？」

「（）どうどうっどうっどうどう（）Yeah!!」

「……あ……エジソン……え……進めろって？……う……うん……えーと……今回のたわいない聞きたいことは……ゴールデン事、坂田金時は目の前にビールがあります、おつまみは何ですか……金時さん、お答えをどうぞ……」

どうどうっどうっどうっどう……どうどうっどうっどうっどう……

「え……またこのミュージックはいるの？」

どうどうっどうっどうっどう……どうどうっどうっどうっどう……

どうどうっどうっどうっどう……どうどうっどうっどうっどう……

どうどうっどうっどうっどう……どうどうっどうっどうっどう……

どうーどうーどうーどうーっっっっっっっっっっっっっっっっっっっっっっっっー

「……金時豆……Yeah!!」

「さあいかがでしたでしょうか!! かるねつとぐだおは!」

「(*、ω、*)」

「先輩は楽しめたようで何よりです! 今後も視聴率次第で続けていきますのでお楽しみに!! 次回は〃円卓の騎士が緊急集合!? アルトリアのステータスは貧乳? 巨乳?〃・〃I a m ゴォールデェンツ!〃・ジャックとナーサリーの三分クッキング!〃 お楽しみに!! それじゃあ!」

「ばいばーい! ((ω、)ノ)」

「・・・なんじゃこのアホみたいな番組は・・・」

「あつノツブお風呂わきましたよおー」

「そうか、よし沖田よ。久々に一緒に入るか」

「・・・はいっ／／／」